

へ勝利江中全力で



83. 4. 13
No. 1314

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五・六(公衆電話)三三二七二〇七

4.11 第8回支部代表者会議開催

動労千葉は四月十一日に第八回支部代表者会議を開催し、当面する闘いの目標と具体的闘いについて、中江選挙闘争一本にしほりきり、勝利にむけて全力で闘い抜く方針を決定しました。支部代表者会議における基調は次の通りです。

深刻な千葉局の要員問題

四月十五日に「五八年度千葉局の経営計画」が提案され、その中で千葉局の新しいプロジェクトが発表されます。

- ① 千葉局の当面する施策の主なものをあげると、
- ② 成田空港乗り入れ(暫定的扱いとして61年頃) フリーケンス輸送(千葉駅を中心とした15分ヘッドによる運行として60年頃)
- ③ 京葉線開業(61年以降に遅れる見込み)
- ④ 成田輸送力の増強(9・10番線ホーム開設) などがあります。

しかし、こうした施策の実施にむけて最大の問題は要員不足です。国鉄当局による新期採用の停止と来年度四〇〇名の特退、そのうえに業増をかかえ、このままいけば、59・3の時点で深刻な事態に直面することは明らかであります。

さらに、国鉄予算は今年度から各局にノルマを課し、それにみえない場合は物件費や人件費等の支出を削るなどのペナルティーを課すという状況の中で、当局は合理化の強行によって要員を生み出す以外にないのです。

国鉄労働運動解体攻撃の激化は必至

国鉄当局は千葉局の攻撃の中心は、「59・2貨物合理化」「内達改悪による乗務員合理化」をはじめとし、施設、電気、営業の「合理化」で60年度までに二〇〇〇名を削減することにより、要員を生み出すとする大合理化攻撃であります。

当局は工作関係からの一〇〇名の転入を手始めとする広域配転を計画しており、こうした広域配転をスムーズに実施するためにも合理化攻撃が急ピッチで進められてくることは確実です。

われわれは反合・新採獲得の闘いと同時に、動労「本部」革マル・当局一体となった、広域配転を口実とした革マル分子の送りこみによる、動労千葉破壊策動を絶対に許さず闘っていかうではありませんか。

また、「職場規律」に名をかりた労働運動解体攻撃はより激化し、臨調・自民党、太田知行体制はさらに強化されることは必至であります。

国労が時間内入浴禁止問題などで、賃金カットや処分を受けつつも反撃に転じている一方で、動労「本部」革マルは臨調・当局の尖兵としての姿をますます鮮明にさせています。「59・2貨物合理化」や「内達改悪による乗務員合理化」は、動労の拠点運転職場・乗務員を直撃する攻撃であるにもかかわらず、動労「本部」革マル反動分子は、これらの攻撃に屈服し、すべて受け入れてしまふことは明らかです。

中江勝利で反動攻勢をはね返そう

こうした状況の中で、国鉄労働運動は重大な事態をむかえています。われわれは、こういう時こそ敵をみすえ、職場に根をはった原則的な闘いを追求しなければなりません。

動労千葉は、いま中江候補を船橋市会に送りこむ闘いに一切をかけて闘っています。この闘いは中曽根内閣・国鉄当局の攻撃を「船橋」でむかえうち、勝負をしているのです。従って、ここでの勝利は中曽根内閣と国鉄当局の反動攻勢をはね返し、動労千葉を全国の労働者・労働組合のけん引者におしあげることになるのです。

もてる力をすべて投入し、中江の勝利をかちとろうではありませんか。

中江候補必勝にむけた具体的取り組み

各支部は、中江選挙勝利にむけて、十四日以降二十三日までの告示期間中、連日一割動員を目標に取り組みを強化すること。全組合員は目標を実現するために、一日以上の動員を貫徹すること。

中江候補出陣式
4月14日 10時
中江昌天 自宅前
(集合) 津田沼駅北口9時